

平成30年度スポーツ庁委託事業

「Specialプロジェクト2020（特別支援学校等を活用した
地域における障害者スポーツの拠点づくり事業）」
成果報告書

山口県教育委員会

1 事業趣旨

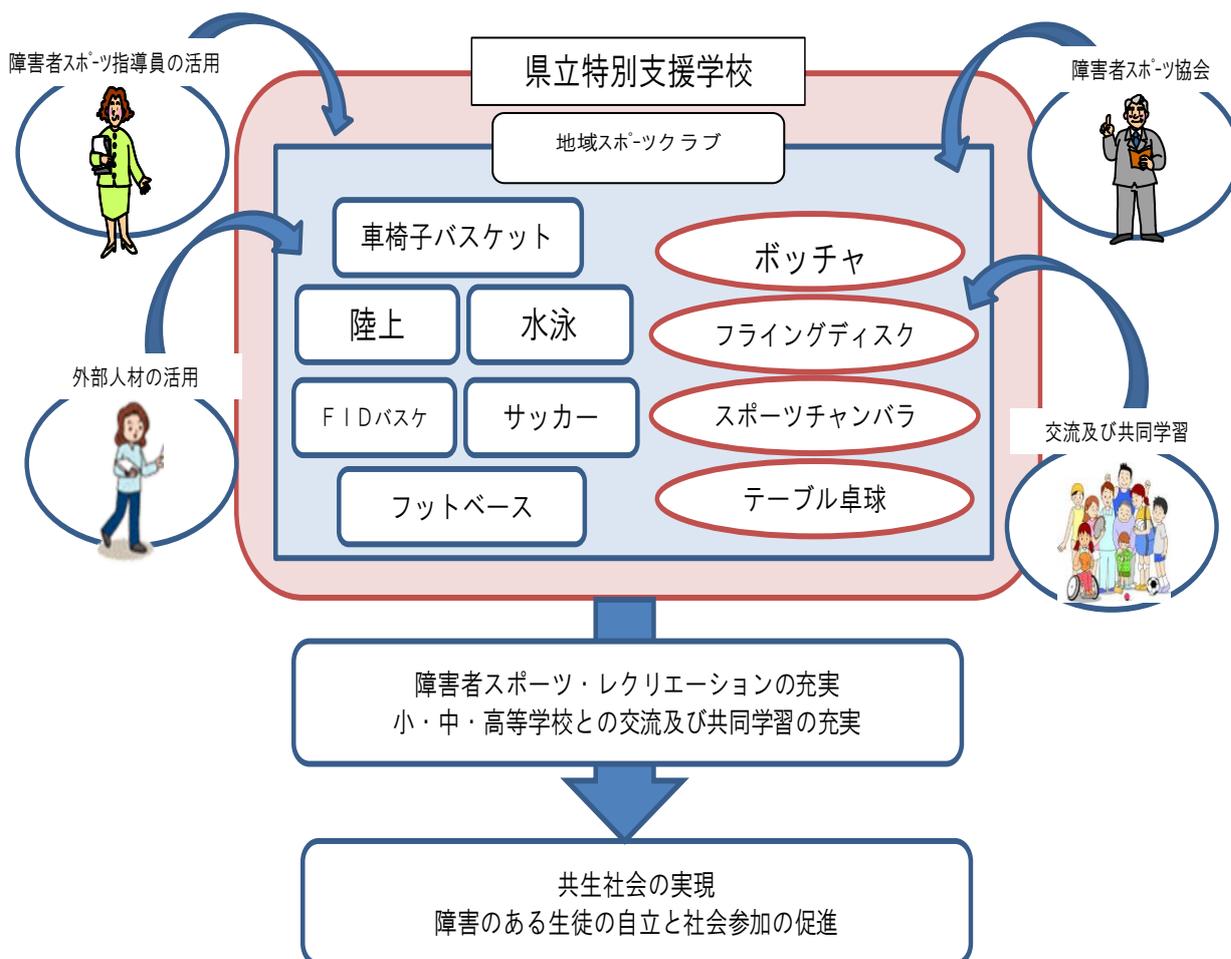
平成23年度に本県で開催した山口国体・全国障害者スポーツ大会では、各特別支援学校の部活動等を強化し、全国大会での入賞や、日本代表として世界で活躍する選手を輩出するなどの成果を得ることはできたが、継続的な取り組みができる体制の整備と有望な選手の発掘・育成、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境の整備がより一層求められている。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、世界大会や全国大会で活躍できる特別支援学校の生徒の競技力向上を図るとともに、スポーツを核とした交流及び共同学習を推進し、心触れ合う機会を通じて共生社会の実現に向けて障害や障害のある子どもたちへの理解を促進する。

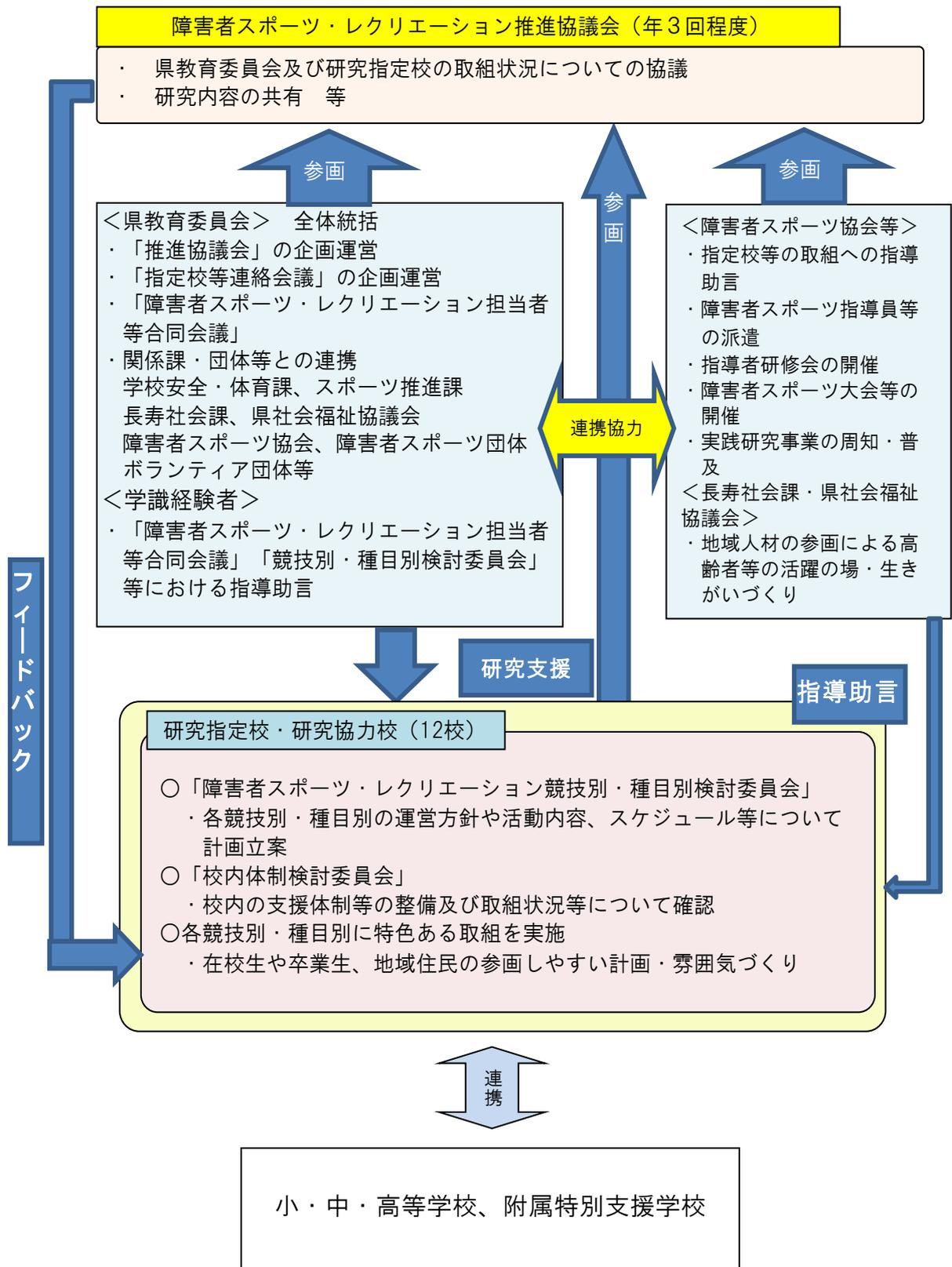
また、障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の充実を図る。

2 事業の実施体制（イメージ）

【実施の概要】



【運営体制】



3 実施の日程

実施時期	実施事項				備 考
	(1) 推進協議会	(2) 競技・種目別検討委員会	(3) 障害者スポーツ指導員等の派遣	(4) パラリンピアン等との交流	
5月	・第1回推進協議会	・検討委員会 (全体打ち合わせ)			採択前
6月		・種目別検討委員会	・スポーツ指導員派遣 (FID、フットベース)		
7月					
8月					
9月			・卓球バレー実技講習会	・陸上パラアスリート (道下美里氏) (河口恵氏)	
10月					
11月					
12月					
1月				・陸上パラアスリート (湯上剛輝氏) (鈴木徹氏) (登城文晴氏)	
2月	・第2回推進協議会				

実施時期	実施事項				備 考
	(5) アスリート等との交流	(6) 県内外大会への参加	(7) 交流及び共同学習の実施	(8) 学事訪問等	
5月					
6月					
7月					
8月		・2018 日本 ID 陸上競技選手権大会 ・2018 教科指定選手強化合宿 ・ジャパンチャンピオンシップ大会 (バスケット)		・特総研体育指導者研修会 (オリパラ)	
9月			・陸上教室 (道下美里氏) (河口恵氏)		
10月		・中四国ブロックFID交流大会			
11月	・フライングディスク教室 (フライングディスク協会長)	・全国聴覚障害卓球大会	・フライングディスク教室 (フライングディスク協会長)		
12月	・陸上教室 (中電：油谷繁)	・熊本県長距離記録会	・陸上教室 (中電：油谷繁氏)		
1月	・野球教室 (飯田哲也氏)		・陸上教室 (鈴木徹氏) (登城文晴氏) ・野球教室 (飯田哲也氏)	・オリパラ2020 事業実践校等 (秋田市、弘前大学附属特支) ・オリパラ2020 報告会等 (港区、横浜市)	
2月		・海の中道コスカントリー大会		・障害者スポーツ実践 (日本体育大学附属特支)	

4 事業の概要

(1) 目的

- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、世界大会や全国大会で活躍できる特別支援学校生徒の競技力向上を図るとともに、スポーツを核とした交流及び共同学習を推進し、心触れ合う機会を通じて共生社会の実現に向けて障害や障害のある子どもたちへの理解促進に努める。
- ・ 障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の充実を図る取り組みを行う。

(2) 事業の取組等

① 障害者スポーツ推進協議会（年2回実施）

- ・ 学識経験者や各関係団体の参画のもと、県の施策及び事業の円滑な推進に向けての協議を行い、障害のある子どもたちが安心して活動できるよう関係団体と連携した取り組みを推進することができた。
- ・ また、障害のある子どもたちが生涯にわたって心豊かに生活するためにも、余暇活動の充実とそれを支える地域の理解が必要であることから、地域スポーツクラブの連携やボランティアの育成、理解促進に向けた取り組みを一層充実するよう助言をいただいた。

② 障害者スポーツ・レクリエーション競技・種目別検討委員会

- ・ 障害者スポーツ指導員等の参画のもと、各競技・種目別に活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営等についての確認を行ったことにより、共通理解を図ることができた。
- ・ 各競技・種目別に委員会を実施しながら進めており、組織的な体制整備及び各競技間の相互連携の一層の充実を図っていく。

③ 各特別支援学校への障害者スポーツ指導員等の派遣

- ・ 障害者スポーツ指導員等の参画により、部活動やレクリエーション等の指導内容の工夫・改善につながり、教員の指導や生徒の活動の幅が増えるなど、活動が充実してきている。
- ・ 各競技等により、障害者スポーツ指導員などの派遣等に違いはあるが、障害者スポーツ協会等との連携のもと、計画的な派遣等により、各学校の取り組みを一層充実していく。

④ パラリンピアン等との交流

- ・ 障害者アスリート・パラリンピアン等との交流により、「ほんもの」のスポーツに触れることにより、生徒は競技力向上に向けた意識が芽生え、日々の練習に取り組む姿勢に変化が見られるようになった。
- ・ また、生徒だけでなく、指導者の意識にも変容が見られ、指導内容の工夫・改善に取り組む事例等が増えた。スポーツに興味が高かった生徒についても、生涯にわたってスポーツ等に親しむ意識等が醸成されつつある。



<特別支援学校生徒や中学生等への講演>

⑤ 県内外大会への参加

- ・ 各競技・レクリエーション競技・種目別の大会への参加機会が増えたことにより、スポーツ等に取り組む生徒の意識・意欲に変化が見られた。
- ・ また、経験や体験を通じて、生徒の社会性の向上とともに自信につながり、学校生活や日常生活での活動にも積極性が見られるようになった。
- ・ こうした生徒の変容を実感することにより、教員や障害者スポーツ指導員等の意欲の向上につながっている。
- ・ 各競技・レクリエーションごとに積極的に参加できるよう、来年度も計画的な参加を目指す。

⑥ 交流及び共同学習の実施

- ・ 障害者アスリート等の参画によるスポーツ教室等を通じて、特別支援学校と中・高等学校の生徒が交流等を行った。スポーツを通じて自然に交流ができたことで、交流を楽しみ、相互理解につながっているように感じた。今後も、教育課程等に位置付けた交流及び共同学習を充実し、相互理解を一層推進し、共生社会の実現を目指す。

⑦ 学事訪問等

- ・ 本事業の受託団体やスポーツ等で特色ある特別支援学校、国立特別支援教育総合研究所を訪問し、各地域の特色ある取り組みや体制整備、指導者育成等について学び、本県の取り組みの参考とするとともに、障害のある生徒が生涯にわたってスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の充実を図っていく。

5 成果と課題

(成果)

- ・ モデル校の生徒及び卒業生を中心に、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる場が形成されつつある。
- ・ また、近隣の小・中学校や高等学校、地域の方等とスポーツやレクリエーションを通じて交流及び共同学習を行うことにより、自然と会話が進むなど、障害や障害者理解、相互理解が促進されているように感じる。
- ・ 様々な大会や競技等を行う場への参加機会が拡充されたことにより、生徒のスポーツ等への参加意欲の向上や技能向上にもつながっている。
- ・ モデル校での取り組みを参考に、県内の特別支援学校においても、スポーツやレクリエーションを行う機会の拡充につながりつつある。

(課題)

- ・ スポーツクラブ立ち上げに向けて検討を進めているが、支援者の確保や資金確保が重要であり、引き続き障害者スポーツ協会と連携して障害者スポーツを支援するボランティアバンク等の整備を進めていく必要がある。
- ・ また、地域等への周知を図るなど、障害や障害者理解、心のバリアフリーを促進し、障害のある方が安心して取り組める生涯スポーツの場を確保するとともに、特別支援学校が地域とともにスポーツやレクリエーション活動等を充実するための体制整備・構築に取り組んでいきたい。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、山口県が実施した平成30年度 Special プロジェクト 2020（特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

